

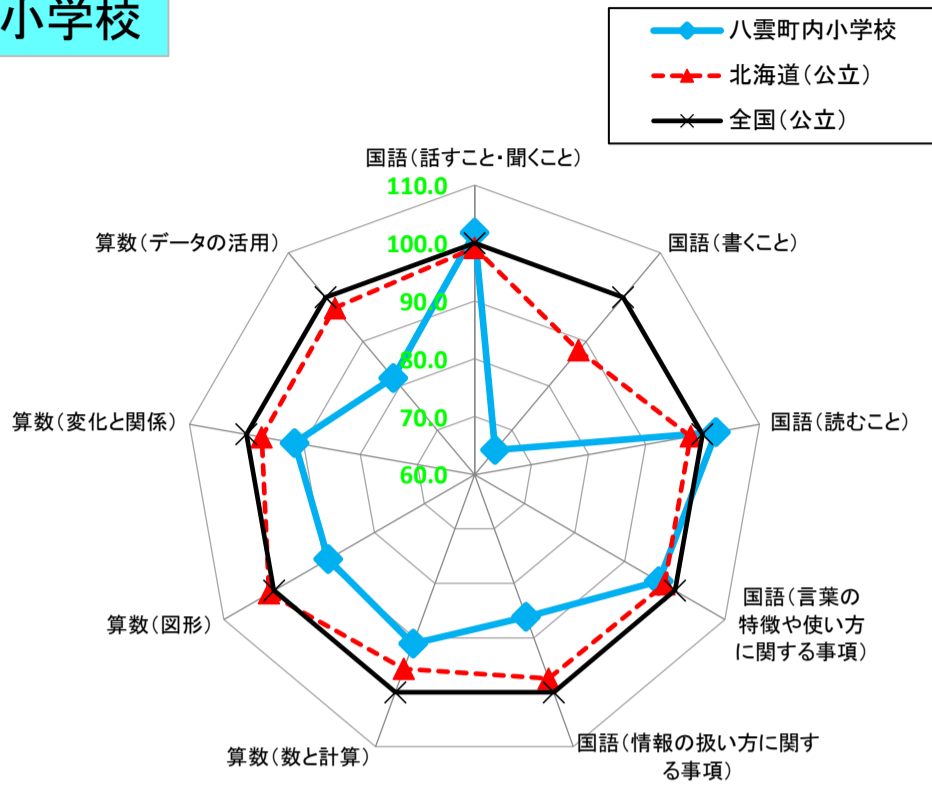
■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:97人）（中学校数:4校、生徒数:101人）

【教科全体の状況】

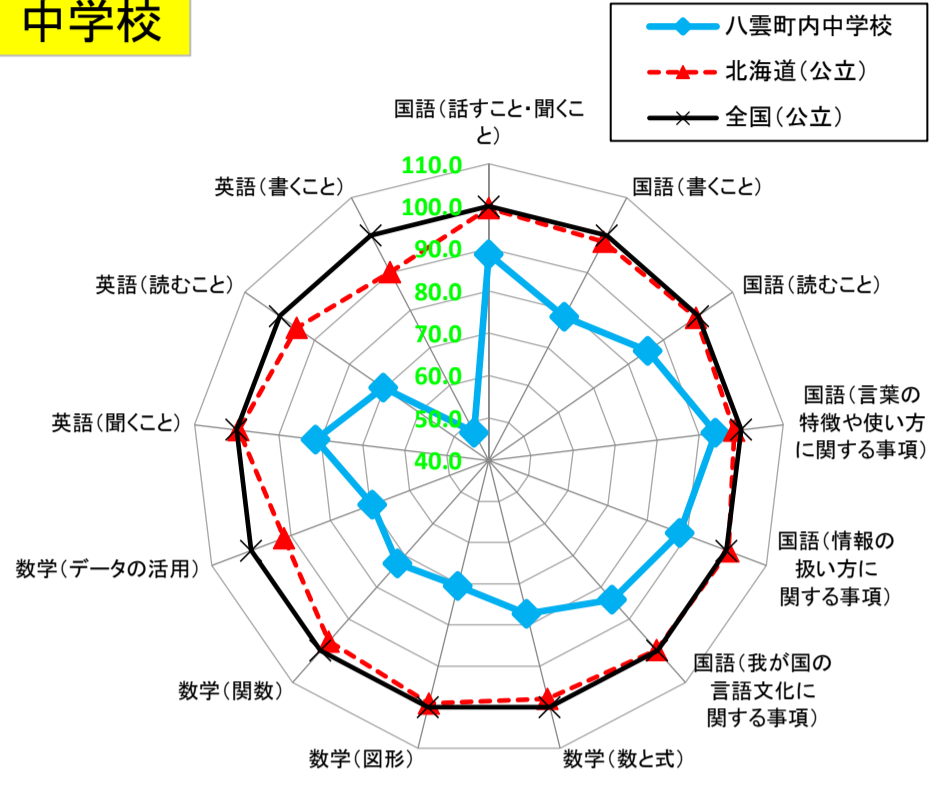
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	65	60
算数・数学	56	38
英語	-	33

小学校

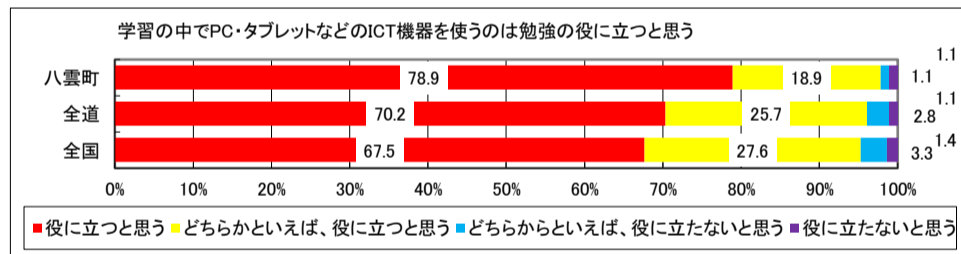
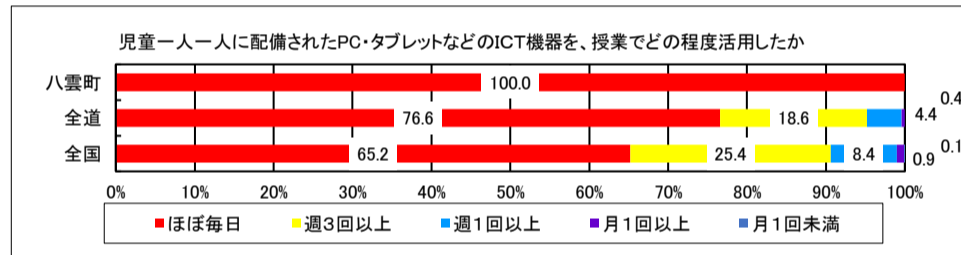
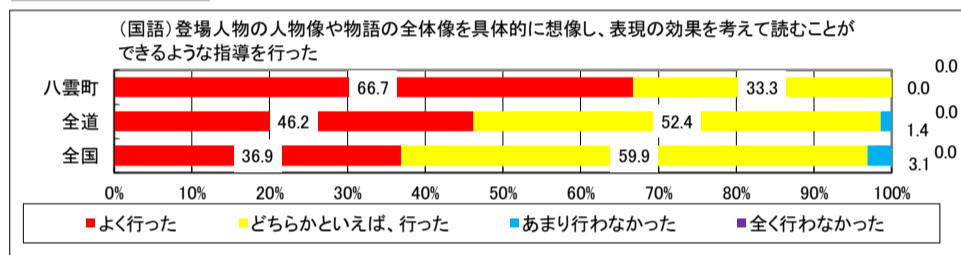


中学校

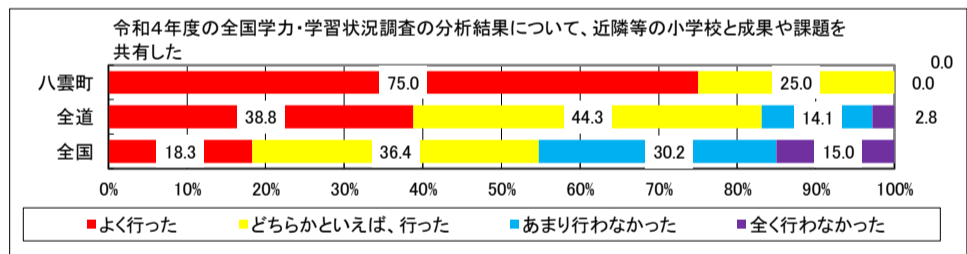
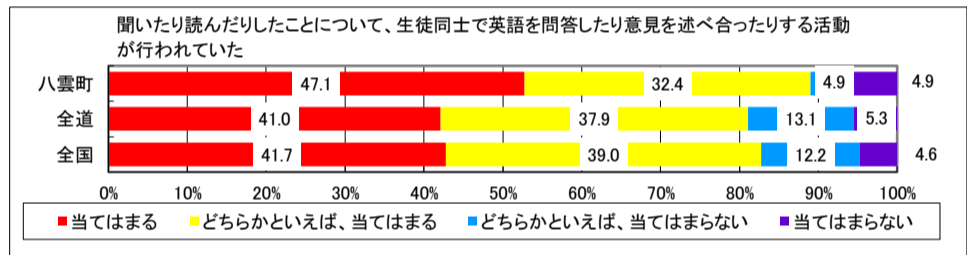
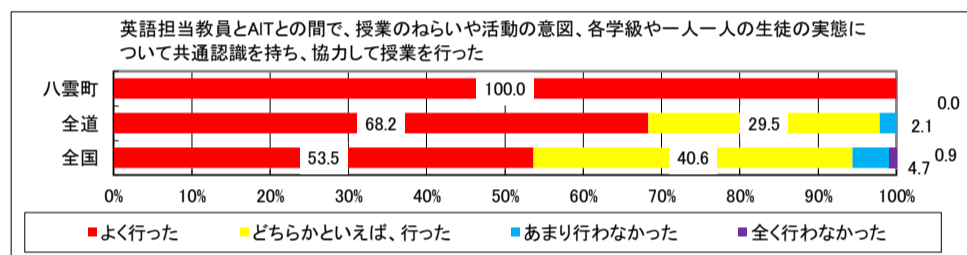


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えることができるような指導を行ったことにより、国語の「読むこと」の平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日活用したことにより、学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答する児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校

英語担当教員とALTとの間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態について共通認識を持ち、協力して授業を行ったことにより、授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと回答する生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

「小中一貫型コミュニティ・スクール」の取組を推進し、「社会とともにある学校」の具現化が図ったことにより、令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有したと回答する学校の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ 「基礎的・汎用的読解力」の育成に視点を当てた授業改善に係る共通実践事項「八雲スタイル」の推進
- ◎ 全小・中学校における活用ロードマップに基づいた、1人1台の学習用端末の日常的な活用“普段使い”の推進
- ◎ 各中学校区内で目指す15歳の姿を共有した「小中一貫型コミュニティ・スクール」の推進

【Webページ】

